

独創点：妊婦の耐糖能について75gによる新しい糖負荷基準が模索されているが glycohemoglobin の値から従来の方法と関連させてこれを解析し、かつその臨床応用を試みた報告は国内外にない。

347. 胎盤由来の腎炎惹起性糖蛋白

(奈良医大)

飯岡 秀晃, 森山 郁子, 一條 元彦
(国立病院医療センター・臨床研究部)

柴田 整一

目的：妊娠中素症の原因は未だ不明である。しかし、その主病変は腎にある。一方この腎病変をおこす原因としては、従来より胎盤由来物質の関与が示唆されてきた。今回、我々は腎由来の腎炎惹起性糖蛋白が、肺、大動脈、肝など広く他臓器にも存在することに注目して同様の物質を胎盤より抽出することを試みた。

方法：人胎盤絨毛組織を mesh 操作にかけ終末絨毛とし、次いで超音波処理を施して絨毛基底膜を得た。次にこれを trypsin 消化で可溶化し、更に pronase 徹底消化、ゾーン電気泳動、column chromatography などを用いて精製し、その化学的性質について調べた。一方、可溶性絨毛基底膜および、人腎由来の腎炎惹起性糖蛋白でウサギを免疫して得た各抗血清を用いて、Ouchterlony 法および酵素抗体法 (ELISA 法) を行なった。

成績：① 可溶性人胎盤絨毛基底膜の抽出精製法を確立した。② 精製収量は胎盤絨毛1kgより2.8mgであつた。③ 本精製物と人腎由来の腎炎惹起性糖蛋白との異同につき Ouchterlony 法で検討した結果、両者は免疫学的に同一であることが判明した。④ 酵素抗体法を用いて活性分画を確認した結果、可溶性絨毛基底膜の精製過程における生化学的性質は人腎由来の腎炎惹起性糖蛋白のそれと一致し、またその活性部が Con A 親和性をもつことよりその本体が糖蛋白であることが判明した。⑤ 更にこの糖蛋白の糖組成でグルコースが主体である点、またそのアミノ酸組成で、コラーゲン成分を欠く点も人腎由来の腎炎惹起性糖蛋白のそれと一致した。

独創点：胎盤より、人腎由来の腎炎惹起性糖蛋白と同様の物質の抽着に成功し、広く基底膜病という概念に基いて、胎盤由来物質の妊婦中毒症発症病態への関与を示唆した。

質問

(九州大) 佐野正敏

Placenta, 腎等からの腎炎惹起性物質の release の mechanism について御教示をお願いします。

回答

(奈良医大) 飯岡 秀晃

本物質はトリプシン酵素消化によつて基底膜より可溶化 (遊離) されてきますが、体内においても同様の機序が働いて本物質が遊離されてくるものと考えております。

質問

(琉球大) 中山 道男

絨毛基底膜精製物質を用いて腎組織に対する蛍光抗体法でどの様な所見が出るか、やつておられたら御教え下さい。

回答

(奈良医大) 飯岡 秀晃

本物質による腎炎はメサンジアルパターンを示す蛍光抗体像を示しますが、如何なる型で腎の基底膜障害を惹きおこしているかは今後の検討が必要と考えられます。

質問

(神戸大) 松浦 脩治

- 1) 体液中 (たとえば尿中) などでの存在はどうか?
- 2) この物質が、広く基底膜に存在するならば、中毒症で腎に特異的に作用する Mechanism は?
- 3) この物質の抗体を作成する場合には抗原として、直接使用されたかどうか?

回答

(奈良医大) 飯岡 秀晃

- 1) 妊娠中毒症患者の尿中にも本物質が存在することを認めています。今後更に検討したいと考えております。
- 2) 胎盤由来の本物質が、トリガー的役割りを果たし腎等の本物質の遊離をひきおこし全身臓器の障害をひきおこすものと考えております。
- 3) 抗血清作製では特に carrier は用いていません。

348. 腎生検よりみた妊娠中毒症の予後判定

(東海大)

杉原 義信, 中山 一武, 篠原 正樹
黒島 義男, 藤井 明和

目的：妊娠中毒症、特に、混合型妊娠中毒症に際し、妊娠許可、妊娠維持の可否判定に、従来より、多くの報告がみられる。我々は、妊娠中毒症の予後判定の目的で、腎の開放性生検を行ない、光顕、蛍光抗体法、電顕的検索により得られた組織学的分類を指標として、妊娠中毒症を解析し、retrospective に考察した。

方法：妊娠前あるいは分娩後に開放性腎生検を行ない、光顕、補体、免疫グロブリン、フィブリノーゲンによる蛍光抗体法、電顕的検索を行なった。IgA 腎症は、grade を、1～4 に区分した。(野本らの分類に従った)

成績：総数11例に対し、以下の成績を得た。IgA 腎